

2 移住交流の仕組みをつくる——こうげの寺子屋——

みらいのシカケ

みらいのシカケは、まちづくりに対する意欲と行動力を併せ持った人材を町外から招き入れ、地域の皆さんと一緒に魅力づくりや課題解決を行いながら、時代に合った暮らしを考え、実践する構想です(=田舎暮らし研究村構想)。まちづくりに町外からの視点や専門性を取り入れ、地域内外の人が力を合わせることで、良質な人と物の交流が生まれ、活気が出てきます。そこから、移住や定住につながる好循環を生んでいくことが、とても重要だと考えています。

平成26年度に、交流や移住希望者の入口として、田舎暮らし研究交流サロンを開設しました。地域おこし協力隊員が常駐して、移住等の相談対応や、地域の紹介と橋渡しを行っています。これまでに、延べ約1,000人が研究サロンを訪れています。また、上毛町で暮らしの体験ができる移住体験プログラム「上毛町ワーキングステイ」を、平成24年度から実施しています。体験参加者全員が、繰り返し町を訪れるほどのファンになってくれており、今春、一組の移住が決定しました。

これからは、ますます広がる交流人口や、様々な地域課題とニーズに対応するため、町全体で受入体制をつくる必要があります。そこで、「こうげの寺子屋-弟子入りプロジェクト-」の準備を進めています。これは、地域の皆さんが師匠となって、町外の若者等(=弟子)に、地域の仕事や生活文化、習わしなどの知恵と技を伝承していくことで、あらゆる地域課題の解決を目指すものです。

農林業の手伝いや担い手の育成、空き家の活用など、課題とされる数々の事案をひとつずつ解決していくことができれば、その全てがまちの元気の源へと生まれ変わっていきます。

現在、師匠を募集していますので、皆さんのご協力をお願いします。

「こうげの寺子屋」準備の流れ

- 1 師匠候補者を訪問し、町職員が調査票を作成
- 2 師匠の情報を取りまとめ、ホームページなどで弟子を募集
- 3 応募があった場合、師匠と弟子で打合せを行う
- 4 受入決定後、師匠は「食・住」を、弟子は「労働力」を交換



職場インターンや農林業などの担い手を募集します。

こうげのシゴトは、地域の個性を生かした特産品や観光商品をつくることで、上毛町らしい生業とブランドをつくる地域活性化の事業です。平成26年度までは、デザインや情報発信などを学ぶ研修事業を中心に実施してきましたが、平成27年度からは、上毛町を象徴する里山をブランドの核として、より具体的なビジネスモデルをつくる準備を進めています。

まずは、野草をキーワードに、町内の個人・団体・事業所の皆さんにご参加いただき、それぞれが役割分担をすることで、町全体の取組みとしての好循環を目指します。

里山ビジネスの仕組みづくりの流れ

- 1 野草を集める(採集・栽培する)
- 2 一次加工する(乾燥やペースト)
- 3 商品開発する(店舗や加工団体)
- 4 情報発信する(インターネット)
- 5 体験イベントを開催する(草や虫)
- 6 野草を求めて人が集まるようになる
- 7 商品や体験が売れるようになる
- 8 里山を育む町として認知される(町のブランド化)

皆さんと一緒に、魅力的な野草商品を生み出したり、観光客に体験として提供するなど、こうげの豊かな里山と人をアピールする仕組みの定着に力を入れていきます。



野草を集めたり加工できる方を募集します。



魅力ある野草商品や体験を取りまとめ、情報発信します。

1 里山ビジネスの仕組みをつくる

みらいのシカケ



住みたい上毛町推進プロジェクト

里山ビジネスと移住交流の仕組みづくり

住みたい町とその特徴は

住みたい街ランキングや、おすすめの田舎など、わたしたちの暮らしをテーマとした情報が、紙面やテレビ、インターネットなどで急増しています。それだけ、皆さんの関心が寄せられていることが分かります。

「上毛町の特徴は何か」と尋ねられたとき、一番に何を連想するでしょうか。例えば、美味しいお米に瑞々しい野菜が自慢の町。または、バレーボールなどのスポーツが盛んな町。あるいは、福岡県の最東端にあり、災害の少ない町など、それぞれに思い浮かぶイメージがあると思います。

町内には、鉄道や路線バス、スーパーなどありませんで、不便なイメージも持たれがちですが、山国川を境に大分県中津市に隣接しているため、移動手段さえあれば、快適に暮らすことができます。特に、平野部と山間部が柔らかくつながった「里山」が広がる環境は、最近、都市圏の方にも評判になっていきます。それは、山間の静かな集落からでも、市街地まで車で約20分程度という適度な距離感が、自然の中にありながら暮らしの利便性が保たれる「ちょうど良い町」という評価をいただいているからなのです。

また、上毛町は、住民主体の地域づくりが盛んな町でもあります。地域の課題解決や魅力発信など、一人ひとりが特技を活かし、まちづくりに参加しています。町が認定する地域づくり活動団体は、40を超えました。これは大きな特徴であり、町の魅力だと考えています。町外からも、「人が元気な上毛町」と羨望されるようになっていきます。

地方創生が叫ばれる時代に

最近、話題となっている「地方創生」という言葉。至る所で耳にするようになりました。その中身は、1980年代後半のふるさと創生事業の再来ではなく、今回は、個々の特徴を活かして頑張った自治体の取組みについて、国が支援する仕組みとなっています。これまでの縦割りで全国一律短期型の政策を見直し、「地域の課題解決は、地域がアイデアを出し実行していく」という方針を示しています。東京一極集中を是止し、地方自らが成長する活力を取り戻し、人口減少を克服していくといった姿を描いているのです。

上毛町では、一足先に、住みたい上毛町推進プロジェクトをスタートしています(平成23年度)。地域の特性を活かした総合・横断的な取組みにより、持続可能なまちづくりを目指すプロジェクトです。まちづくりに参加する町内外の皆さんと一緒に、アイデアを出し合い、行動すること、この人口減少の時代に、いつまでも元気なまちの好循環を築いていきます。

現在、進行中の事業は、地に足のついた生業とブランドをつくる「こうげのシゴト」と、町内外の交流と移住のきっかけをつくる「みらいのシカケ」という二本柱です。ぜひ、皆さんのご参加や協力をお願いします。

いつまでも元気なまちの好循環へ

人口減少は、全国規模で必至であり、避けられないものであるとすれば、これから何十年経っても「まちづくりが盛んで元気な上毛町」であることが肝要ではないかと考えています。それを支える人材が集まる町こそが、本プロジェクトの到達点です。

皆さんが守り育んでいきたいものを後生に伝え受け継いでいくため、また、皆さん自身がいつまでも元気に活躍し続けるための好循環を、ひとつずつ仕組みとして築き上げていきます。詳しくは、お問い合わせください。

●問い合わせ先

企画情報課 企画情報係 TEL 72-3111(内線122)

特集

まちづくりの現場から

このコーナーは、上毛町第1次総合計画に掲げられた目標を実現するために、町が取り組んでいる事業のプロセスや課題などを毎月シリーズで紹介するものです。今月は、「住みたい上毛町推進プロジェクト」の現場からお届けします。